

大切な「水」をあなたへ……川本ポンプ

<工事店様用>

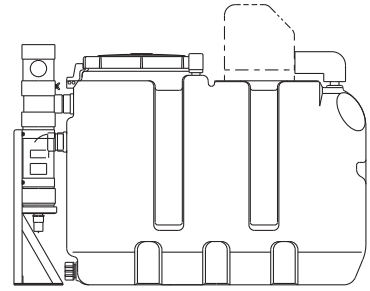


KAWA® 太郎

<地上形雨水利用装置>

TAR

取扱説明書



このたびは、地上形KAWA太郎をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。なお、
お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

<目次>

1 はじめに	2	6 配管	11
2 仕様	2	7 電気工事	12
3 製品の構成	3	8 試運転	13
4 組立	5	9 防寒対策	15
5 据付	8	10 保守・点検	15

<工事店様へのごお願い>

別冊の取扱説明書<お客様用>は、直接お客様に手渡されるようお願いいたします。

⚠️ 特に注意していただきたいこと

1. この装置の水は飲み水ではありません。蛇口に必ずえふ「この水はのめません」(標準付属品)を取り付けてください。飲むと身体の不調の原因になります。
2. この装置の水は、洗浄便座、手洗いには使用できません。使用すると身体の不調の原因になります。
3. 点検・交換の際は、必ずポンプの電源を遮断する。または、電源プラグを抜いて作業を実施してください。その際は、濡れた手で作業をしないでください。漏電・感電やけがの恐れがあります。

本文中の関連箇所にも製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための注意事項が記載されています。

また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠️ 警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠️ 注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

1 はじめに

▲ 注意

- 取扱説明書をよく読んで理解してから作業してください。誤った取扱いをされますと事故の原因となります。

(注1) 別冊のポンプの取扱説明書もよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

(注2) 施工される前に、受水槽、付属部品の点検および、受水槽内部を清掃してください。

KAWA太郎（地上形雨水利用装置）がお手元に届きましたら、下記をお調べください。

1. ご注文通りのKAWA太郎（受水槽+受水槽付属セット+付属品セット：架台付のみ）か、ご確認ください。
2. 輸送中に破損した箇所はないか、ご確認ください。
3. 付属品がそろっているか、ご確認ください。付属品は受水槽付属セット・付属品セットの包装箱に入っています。ポンプは付属されませんので別途準備してください。

[注記]

1. ご使用前に取扱説明書を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。取扱説明書には危害や損害を未然に防止するための注意事項が記載されております。
2. この製品は日本国内用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。
3. 適用範囲外での使用、注意書きなどの不遵守、不当な修理・改造、天災地変に起因するもの、設置環境（電源異常・異物・砂など）によるもの、法令・省令またはそれに準じる基準などに不適合のもの、不慮・故意による故障・損傷のもの、消耗部品の交換、転売による不具合などは保証対象外となる場合があります。
4. 弊社にお問い合わせの際は、『形式』及び『製造番号』をご連絡ください。
5. 不要な部品及び梱包材などの廃棄方法については、各自治体にご確認ください。

《不具合な点がございましたら、お手数でもご購入先へご照会ください》

2 仕様

▲ 注意

- 用途に合った商品をお選びください。不適切な用途で使うと事故の原因になります。
- 決められた製品仕様以外では使用しないでください。感電・火災、漏水などの原因になります。
- 危険・警告・注意ラベル類には人身への危害または財産への損害を引き起こす可能性のある事項が記載してありますので必ず遵守ください。守らないと機器が故障したり感電、火災、けがなどの原因になります。
- 仕様液質として記載のない液体などには使用しないでください。ポンプが故障し、漏電・感電・火災の原因になります。
- 生物（養魚場・生け簀・水族館など）の設備、または重要設備に使用する場合は、予備機を準備してください。ポンプ故障により、酸欠や水質悪化などが発生し、生物の生命に影響を与える恐れがあります。

取扱液	液質	雨水、上水
	液温	0～40℃(但し、凍結なきこと。)
	pH値	6～8
設置場所	屋外	
標準集水面積	30～100m ²	
標準縦樋口径	60mm	
適用ポンプ	NF3形(150W、250W、400W)	
	NR形(130W、150W、200W、250W)	

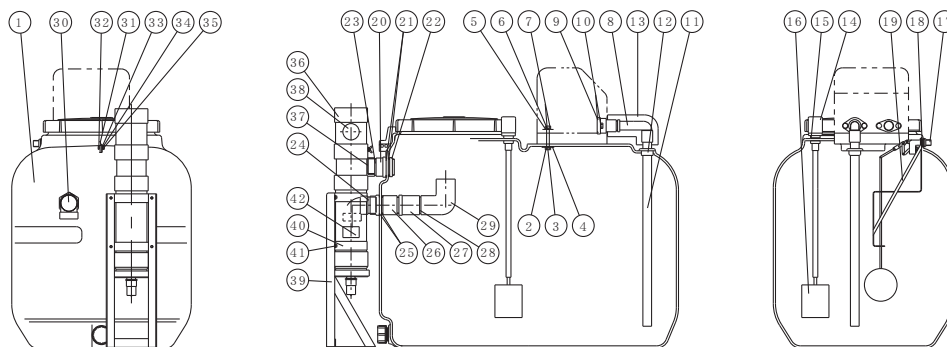
KAWA太郎セット記号	受水槽	受水槽付属セット
TAR-30	TAB-30R	60
TAR-30-B	TAB-30R-B	68
TAR-50	TAB-50R	61
TAR-50-B	TAB-50R-B	69

※-Bは架台付き

3 製品の構成

3.1 構造図

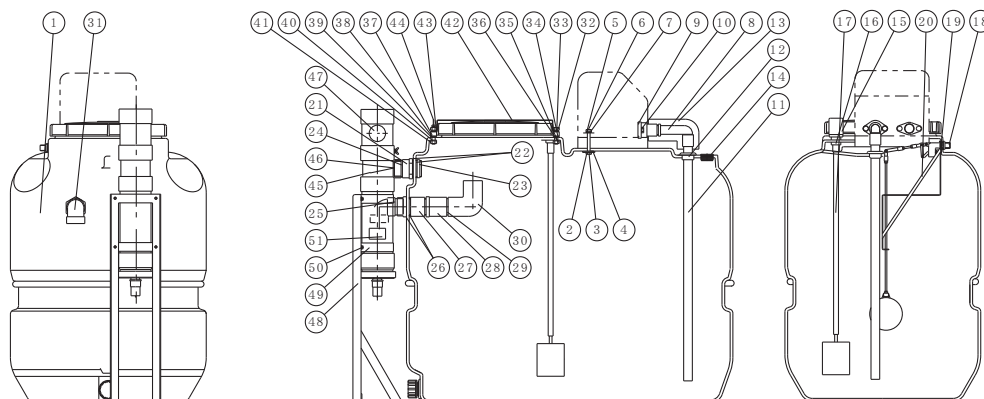
(1) TAR-30



<図-1>

No.	名 称	記号・寸法	No.	名 称	記号・寸法
1	受水槽	TAB-30R	22	丸ナット	G2
2	ボルト	M10×80	23	直管	50×50 (雨水用)
3	平座金	12×45	24	配管	65 (フィルタφ3)
4	リングパッキン	9×45	25	Oリング	P70
5	ばね座金	10	26	ソケット	2・1/2
6	平座金	10	27	バルブ用ソケット	2・1/2 (排水用)
7	ナット	M10	28	直管	65×90(排水用)
8	配管	25	29	エルボ	2・1/2 (排水用)
9	リングパッキン	43×51.5	30	エルボ	2・1/2 (排水用)
10	平座金	10	31	ストッパー	
11	直管	25×72.5	32	ボルト	M6×20
12	パッキン		33	平座金	6
13	防寒カバー		34	ばね座金	6
14	フロートスイッチ本体		35	ナット	M6
15	リングパッキン	16×24	36	セパレータ	
16	フロート	100	37	フィルタ	(φ2)
17	ボールタップ	1/2B-10K	38	点検窓	
18	リング	22	39	支え	
19	支え		40	クランプ	150
20	バルブ用ソケット	2 (雨水用)	41	座金組込小ねじ	M6×12
21	Oリング	P55	42	銘板	

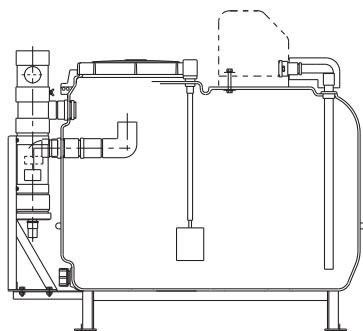
(2) TAR-50



<図-2>

No.	名 称	記号・寸法	No.	名 称	記号・寸法
1	受水槽	TAB-50R	27	ソケット	2・1/2
2	ボルト	M10×80	28	バルブ用ソケット	2・1/2 (排水用)
3	平座金	12×45	29	直管	65×90(排水用)
4	リングパッキン	9×45	30	エルボ	2・1/2 (排水用)
5	ばね座金	10	31	エルボ	2・1/2 (排水用)
6	平座金	10	32	特殊ボルト	M12
7	ナット	M10	33	平座金	12
8	配管	25	34	リングパッキン	12×18
9	リングパッキン	43×51.5	35	ばね座金	12
10	平座金	10	36	ナット	M12
11	直管	25×910	37	両ねじボルト	M12
12	パッキン		38	平座金	12
13	防寒カバー		39	リングパッキン	12×18
14	ふた		40	ばね座金	12
15	フロートスイッチ本体		41	ナット	M12
16	リングパッキン	16×24	42	クランプ	450
17	フロート	100	43	ナット	M12
18	ボールタップ	1/2B-10K	44	リング	
19	リング	22	45	セパレータ	
20	支え		46	フィルタ	(φ2)
21	バルブ用ソケット	2 (雨水用)	47	点検窓	
22	Oリング	P55	48	支え	
23	丸ナット	G2	49	クランプ	150
24	直管	50×50 (雨水用)	50	座金組込小ねじ	M6×12
25	配管	65 (フィルタφ3)	51	銘板	
26	Oリング	P70			

(3) 架台付き：TAR-30, 50B



3. 2 標準付属品

名 称	数量	備 考
弁座 (排水コマ)	1	排水口径3mm
平先止めねじ	2	M3×4 (予備品)
棒スパナ	1	1.5六角レンチ
フィルタC	2	セパレータのフィルタの内側に取り付け (予備品)
えふ	3	蛇口に取り付け
取扱説明書	1	工事店様用
取扱説明書	1	お客様用
シールテープ	1	雨水流入配管およびオーバーフロー配管のバルブ用ソケットに使用 (P6, 7参照)

4 組立

[注記]

別冊のポンプの取扱説明書もよくお読みになり、正しく安全に取付けください。
使用するポンプがNRの場合、取付板セット（NR特別付属品）が必要です。別途ご準備ください。

4. 1 ポンプの取付け<図-3>

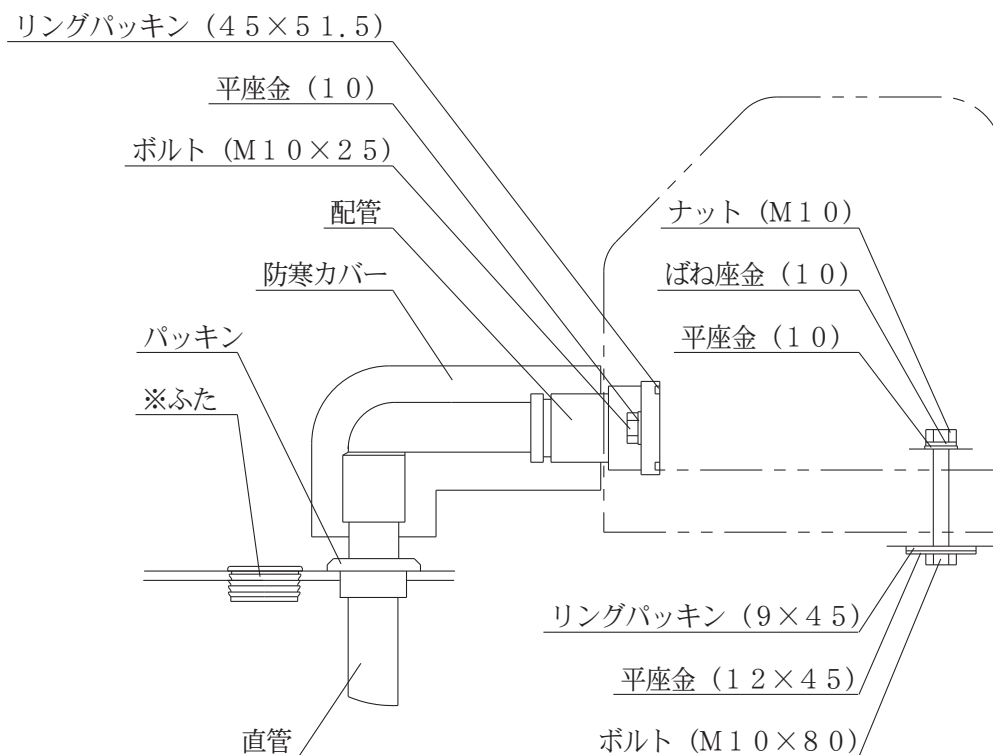
- (1) ポンプを受水槽にのせ、M10×80のボルトで2ヶ所仮取付けします。（平座金、リングパッキン、ばね座金を忘れないでください）
- (2) ポンプの弁座付ひしフランジを取りはずします。
（M10×25のボルトは後で使用します。
弁座付ひしフランジ及び弁体付パッキンは不要ですので処分してください。）

4. 2 吸込管の組立て<図-3>

- (1) 配管と直管（塩ビ）は、水道用硬質塩化ビニル管用の接着剤（JWWA S101規格品）で接続してください。
- (2) 直管（塩ビ）にパッキンをはめ、受水槽に取付け、ポンプに固定します。
（ボルトは4. 1 (2) で取りはずしたものを使用します。平座金、リングパッキンを忘れないでください）
- (3) 吸込管に防寒カバーを取付け、テープで固定します。

4. 3 ポンプの仮り付け部分の固定

- (1) 仮り取付けのボルトM10×80を固定します。



※ふたはTAR-50(-B)に適用

<図-3>

4. 4 フロートスイッチの取付け<図-4>

(1) 受水槽の「フロートスイッチ」の表示位置に取付けます。

注：リングパッキンを忘れないでください。

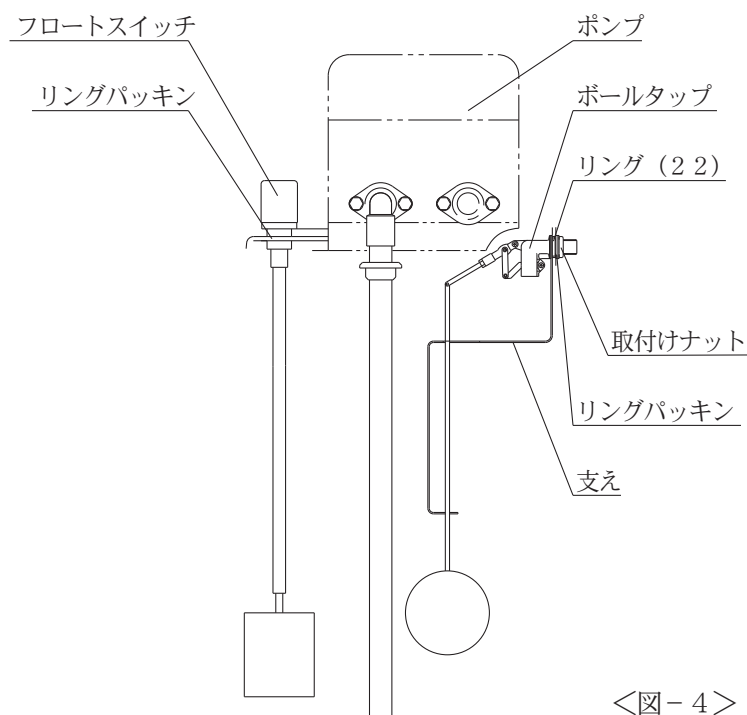
4. 5 フロートスイッチの結線

(1) ポンプ電装部の短絡線（赤色コネクター）をはずし、フロートスイッチのコネクターを差し込みます。

4. 6 ボールタップの取付け<図-4>

(1) 受水槽の「ボールタップ」の表示位置に取付けます。支え、リングを同時に取付けてください。ボールタップに付属していますリングパッキンを取付けナットでしっかり固定します。

(2) 動作不良の原因となりますのでボールタップは必ず垂直に取付けてください。



4. 7 雨水流入配管の取付け<図-5>

(1) 雨水流入配管は、受水槽の「オーバーフロー管」の表示位置に取付けてください。

(2) 雨水流入配管は、バルブ用ソケット（2：雨水用）、Oリング（P 5 5，数量2）、丸ナット（G 2）で構成されています。

(3) バルブ用ソケットのねじ部にシールテープを巻き付けます。

(4) バルブ用ソケットを丸ナットでしっかり固定します。

注：Oリング（バルブ用ソケット×受水槽：1，受水槽×丸ナット：1）を忘れずに取付けてください。

4. 8 オーバーフロー配管の取付け<図-5>

(1) オーバーフロー配管は、エルボ（2・1/2：排水用）、直管（6 5×9 0：排水用）、バルブ用ソケット（2・1/2：排水用）、ソケット（2・1/2）、Oリング（P 7 0，数量2）、配管（6 5：フィルタφ 3）、エルボ（2・1/2：排水用）で構成されています。

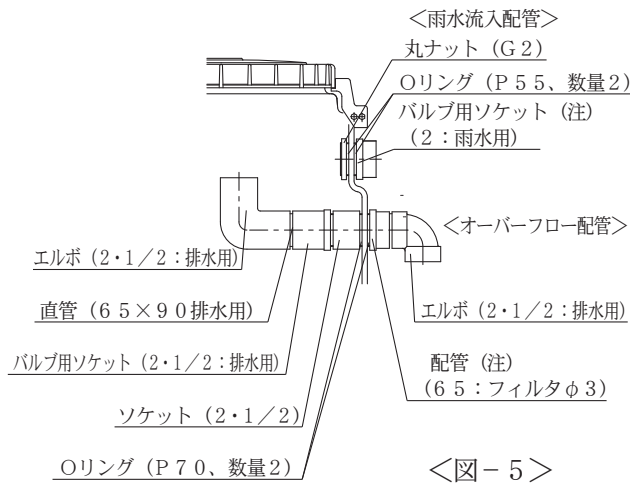
(2) 配管のねじ部にシールテープを巻き付けます。

(3) バルブ用ソケットに直管、エルボを取付けソケットでしっかり固定します。（受水槽に取付ける前に組み立てておく作業が簡単です）

(4) ソケットに配管、エルボを取付けてください。（受水槽に取付ける前に組み立てておく作業が簡単です）

注：Oリング（配管×受水槽：1，受水槽×ソケット：1）を忘れずに取付けてください。

(5) エルボは内外配管とも垂直に取付けてください。



(注) : バルブ用ソケット (雨水流入配管) および配管 (オーバーフロー配管) のねじ部に、必ずシールテープを巻き付けてください。

<図-5>

4. 9 塩ビ配管の接着は、塩ビ配管用の接着剤を使用してください。

4. 10 セパレータの取付け<図-6>

(1) 支え1にセパレータをクランプ、座金組込小ねじで取付けします。

支え1、セパレータは垂直に取付けてください。

(2) 直管 (50×50) に塩ビ配管用の接着剤を塗布し、バルブ用ソケットに挿入します。

(3) (2) で取付けた直管に塩ビ配管用の接着剤を塗布し、セパレータを取付けてください。

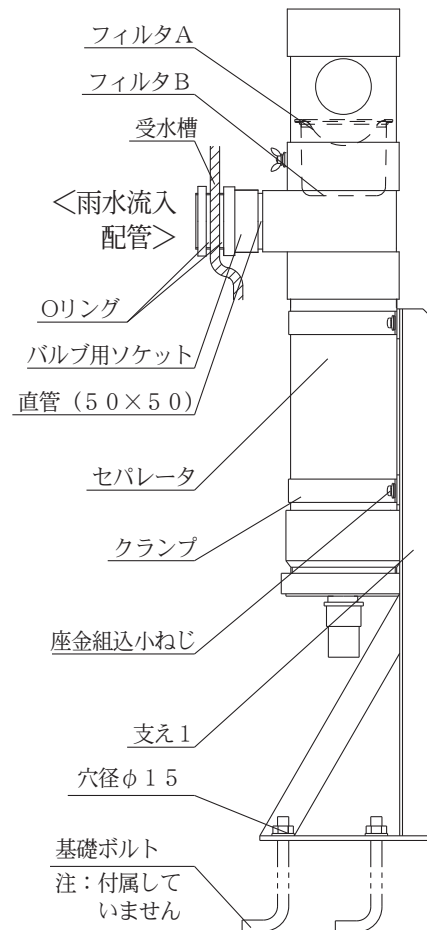
セパレータの中のフィルタA、Bが正しくついているか確認してください。

(4) 動作不良の原因となりますので、支え1、セパレータは垂直に取付けてください。

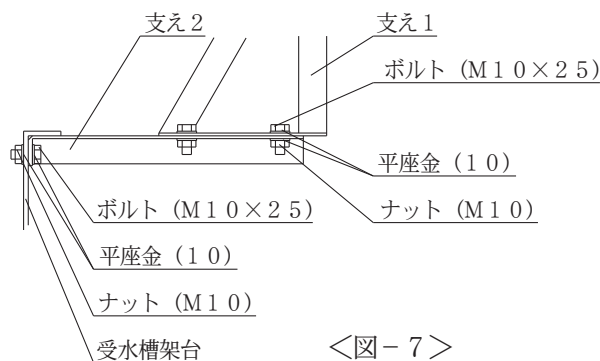
(5) 支え1は基礎ボルト等で固定してください。架台付き受水槽の場合は、受水槽架台に支え2を取付け、その上に支え1をのせボルト、ナットで固定してください。

(ボルト類は架台の付属部品です) <図-7>

(6) 支え1を固定する基礎ボルトは付属していません。別途お買い求めください。



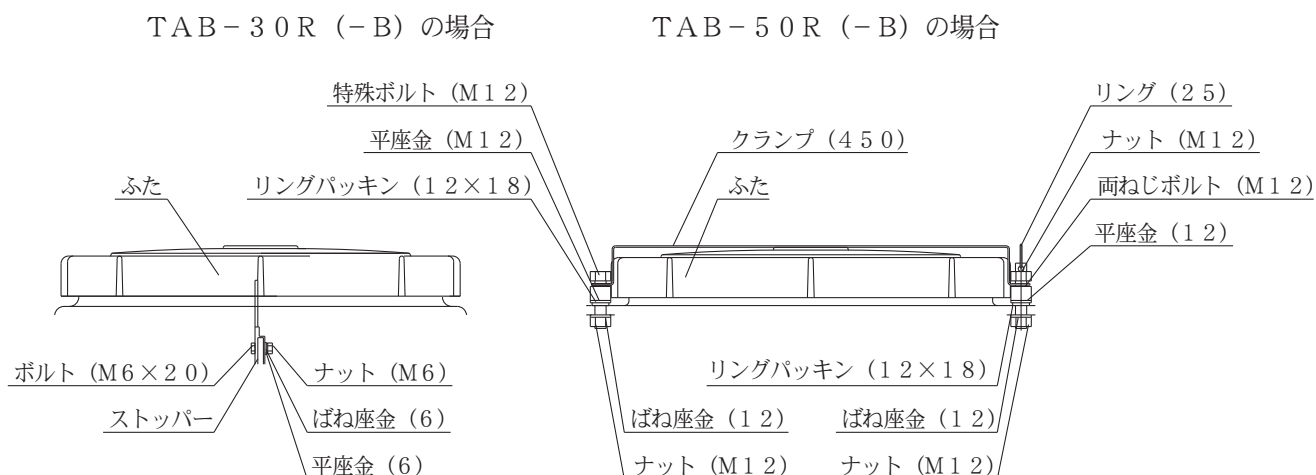
<図-6>



<図-7>

4. 1.1 ふた、ストッパーの取付け<図-8>

(1) ふた、ストッパー・クランプは、配管工事、試運転が終了してから取付けてください。



<図-8>

5 据 付

▲ 警 告

- 荷下ろし、搬入、据付で本製品を吊り下げる場合は、カタログ、据付図にて質量を確認、取扱説明書にて吊り方を確認の上、正しく行ってください。また、吊り具の定格荷重以上の製品は吊らないでください。吊り下げが不完全な場合、落下によるけがの原因になります。
- 据付は取扱説明書に従って確実に行ってください。基礎の上に水平に設置し、基礎ボルトで固定してください。据付に不備があると漏電・感電・火災、落下・転倒によるけがの恐れがあります。またポンプ振動の原因になります。
- 梱包は釘やホッチキスの針などに注意して開梱してください。けがをする恐れがあります。
- 樹脂、ゴム部品は現場焼却しないでください。燃やすと有害なガスが発生する恐れがあります。処理方法は各自治体にご確認ください。
- 機器の寿命を考慮し、設置は風通しがよく、ほこり、腐食性及び爆発性ガス、塩分、湿気、蒸気、結露などがなく、風雨、直射日光の当たらない所を選んでください。悪環境下では、モータ・制御盤の絶縁低下などにより、漏電・感電・火災の原因になります。
- 爆発性雰囲気中では使用しないでください。火災の恐れがあります。

▲ 注 意

- 排水処理、防水処理されていない場所には設置しないでください。水漏れが起きた場合、大きな被害につながる恐れがあります。※排水処理、防水処理されていない場合の被害については責任を負いかねます。
- 機器に衝撃を与えたり、転倒させないでください。破損する恐れがあります。
- 設備によっては吐出側に用途に応じた適切なフィルタなどを設け、十分フラッシングを行い、異物がないことを確認後、ご使用ください。製品製造時の切削油、ゴムの離型剤、異物などや配管系に含まれる切削油、異物などが扱い液に混入する恐れがあります。
- 機器の上に物を載せたり、人が乗ったりしないでください。機器の破損や転倒してけがをする恐れがあります。
- 水平で安定した場所に設置してください。傾いていたり不安定な場合、各水位の動作に不具合が生じる恐れがあります。
- 標高1000m以下の場所に設置してください。やむをえず、標高1000mを超える場所に設置する場合は、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- 配管のネジ部にはシール剤を使用して、水漏れのないように確実に施工してください。確実に施工できていないと水漏れの原因になります。

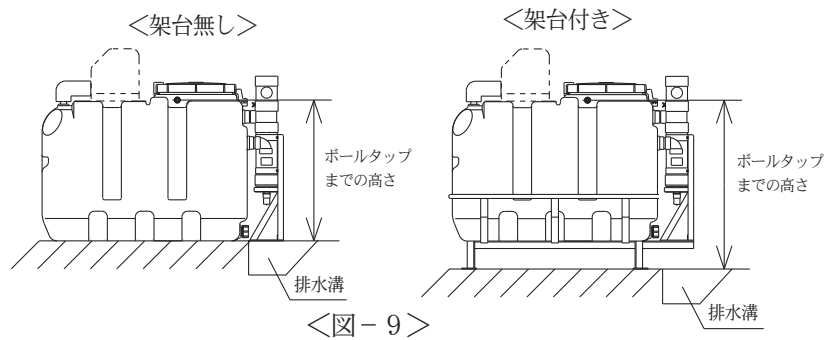
- フラッシュバルブなどの急激な流量変化を伴う機器を使用の場合は、事前に最寄りの弊社営業所へご相談ください。ポンプ停止中にフラッシュバルブを使用すると管内圧力が急激に低下し、圧力変動やエア混入などの恐れがあります。
- 冬期などで凍結の恐れがある場合は、保温材・ヒータ取付などにより凍結防止を行ってください。凍結による破損事故につながる恐れがあります。
- 据付、点検などの作業を行う前に、周辺を整理してください。滑ったり、つまずいたりして、けがをする恐れがあります。
- 配管内に空気溜りができないようにしてください。配管内に空気溜りがあると、ポンプが正常に運転しない恐れがあります。
- 製品を包装しているビニール袋をかぶらないでください。窒息の恐れがあります。

(注) 施工される前に、受水槽、付属部品の点検および、受水槽内部を清掃してください。

5. 1 据付前にご確認いただきたいこと

水道は、各市町村の水道局が定める条例によって管理されていますので次の3項目にご注意ください。

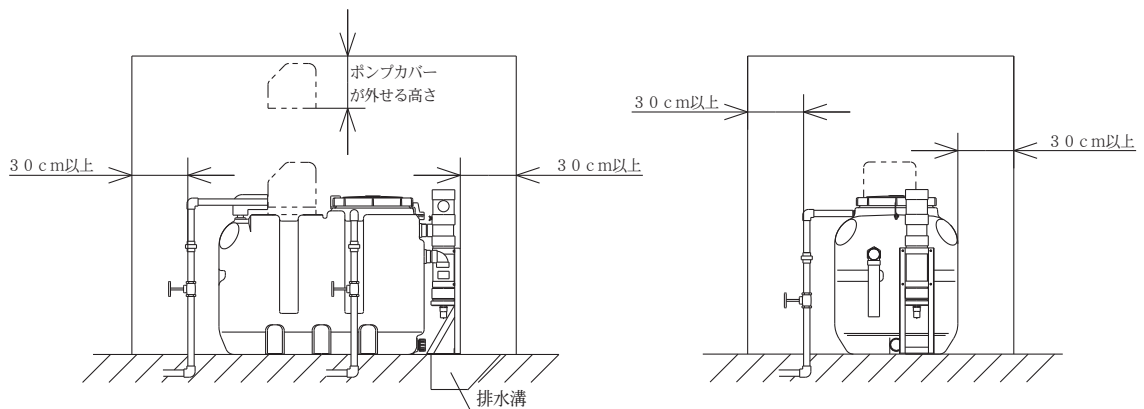
- (1) この装置は水道と直結しますので、配管工事は所轄水道局指定の工事人のみが施工できます。
- (2) 付属ボールタップは水道局の認可を必要とすることがありますので、その場合にはボールタップを持参して認可を受けてください。
- (3) 水道局によっては地面からボールタップまでの高さを規定しているところがありますので、水道局の施工基準に従ってください。



<図-9>

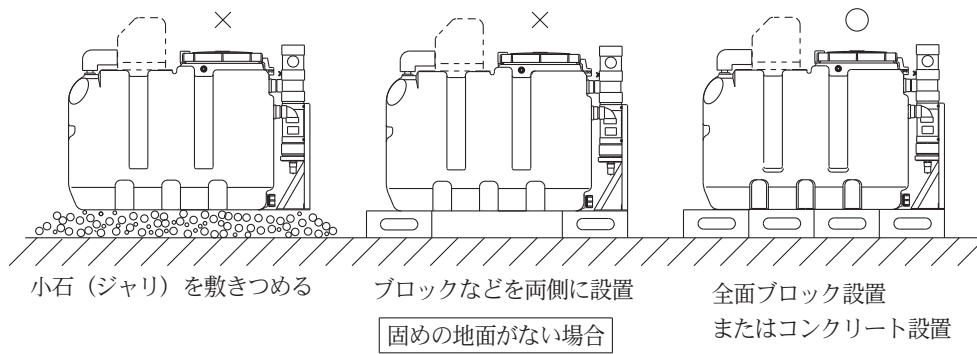
5. 2 設置場所

- (1) 本製品は豪雨やフィルタの詰まり等により、セパレータ上部から雨水が溢れることがあります。溢水を考慮のうえ、必ず屋外に設置してください。
- (2) 直射日光の当たらない場所、修理点検に便利な場所を選んでください。直射日光は受水槽の藻の発生を早めます。
- (3) 浄化槽・下水等より離れた清潔な場所を選んでください。
- (4) どうしても狭い場所しかない場合は、少なくとも次の空間が必要です。

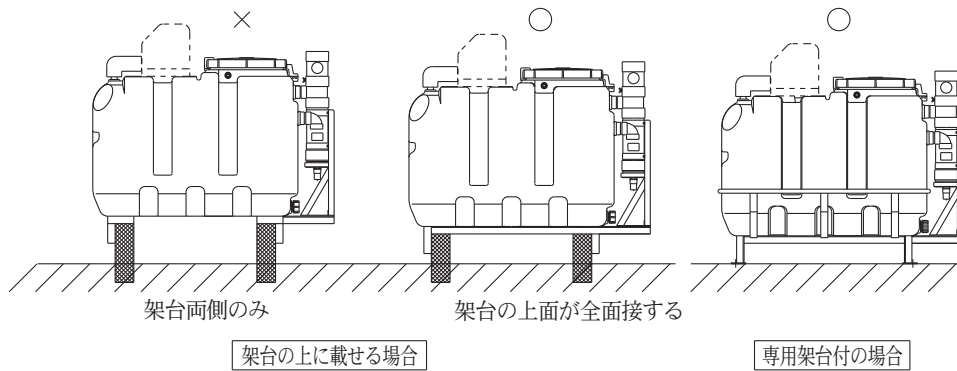


<図-10>

5. 3 設置面は、平面で水平、なおかつ固めの地面を選んで、受水槽底面の全面が地面に接するようにしてください。地面が柔らかいと、凹凸ですと受水槽底面が変形し、装置全体の機能を損なうことが生じます。接地面が水平になるよう配慮してください。装置が水平でないとボールタップが傾いて正常な動作をしません。〈図-11、12、13〉



〈図-11〉



〈図-12〉

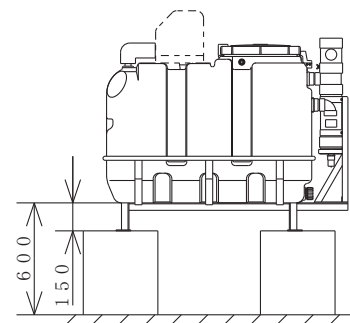
〈図-13〉

5. 4 六面点検が必要な場合は架台付きの装置（-Bタイプ）を使用いただき、現地にてコンクリート施工等で受水槽底面までの距離を確保してください。

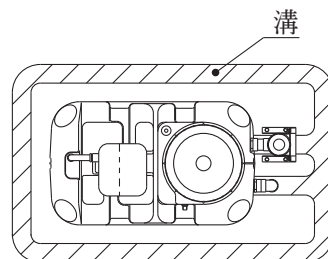
〈図-14〉

5. 5 装置のまわりに溝を設けてください。排水・オーバーフロー・修理の際の水のこぼれ、槽外面の結露など、装置周辺の水浸しを防ぎます。〈図-15〉

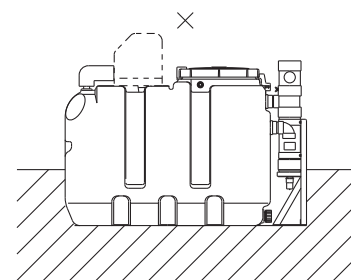
5. 6 この装置は、絶対に地中に埋めて使用しないでください。〈図-16〉



〈図-14〉



〈図-15〉



〈図-16〉

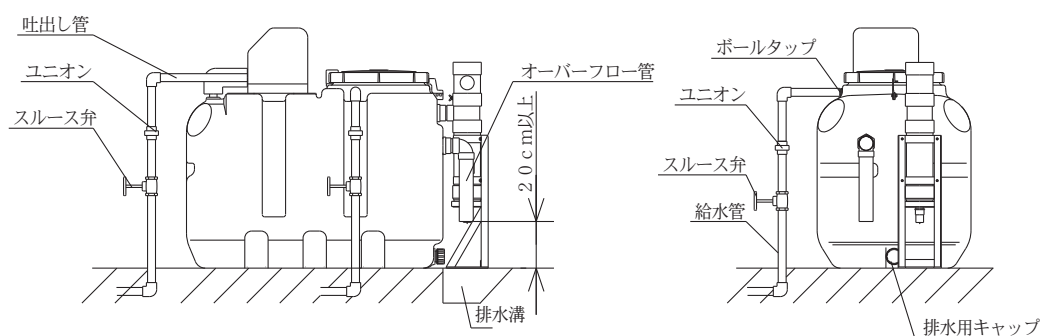
6 配 管

▲ 警 告

- この装置の水は飲み水ではありません。蛇口には必ずえふ「この水はのめません」（標準付属品）を取り付けてください。飲むと身体の不調の原因となります。
- この装置の水は洗浄便座・手洗いには使用できません。使用すると身体の不調の原因となります。

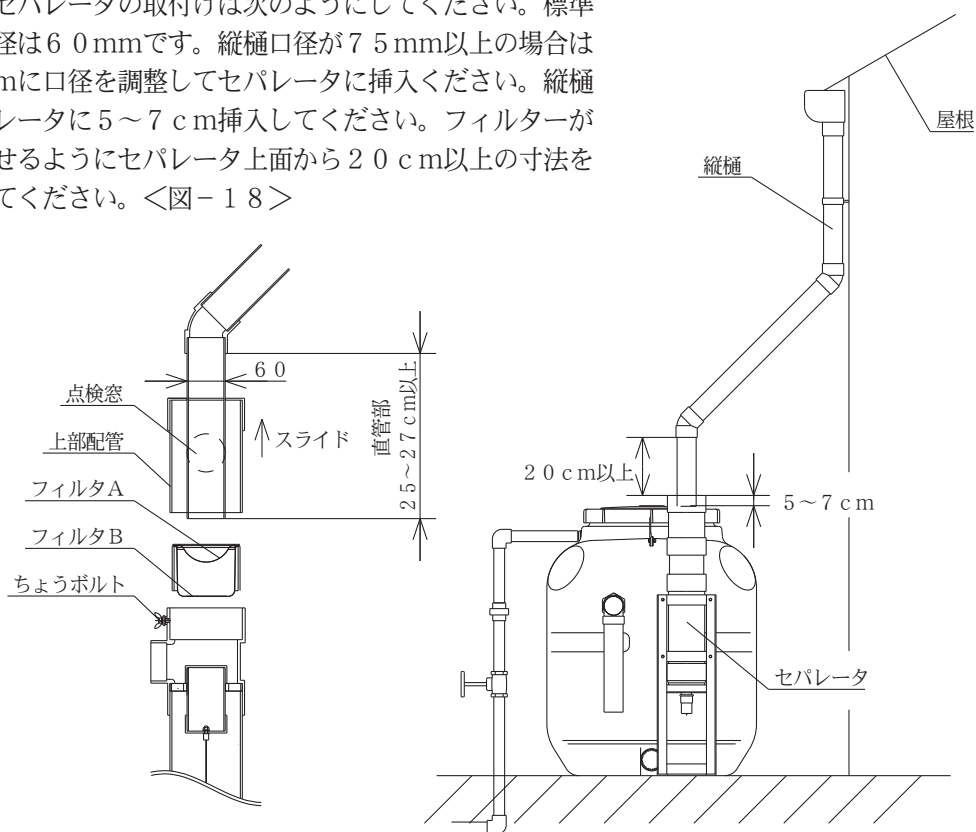
- (1) 給水管・吐出し管には、亜鉛引きガス管、水道用塩化ビニール管または水道用ポリエチレン管を用いて必ず規定の管径のものをご使用ください。管が太かったり、細かったりすると、騒音の発生、ポンプ性能の低下の原因となります。
- (2) 試運転や修理のため、給水管・吐出し管にはユニオン、スルース弁を設けてください。
- (3) オーバーフロー配管をする場合は、必ず地面から20cm以上の間隔をとってください。

<図-17>



<図-17>

- (4) 食物繊維などの微細なゴミが流入する恐れがある場合は、ポンプの吐出し側に浄水器MRK2-25を設置ください。
- (5) 縦樋とセパレータの取付けは次のようにしてください。標準縦樋口径は60mmです。縦樋口径が75mm以上の場合は60mmに口径を調整してセパレータに挿入ください。縦樋をセパレータに5~7cm挿入してください。フィルターが取り出せるようにセパレータ上面から20cm以上の寸法を確保してください。<図-18>



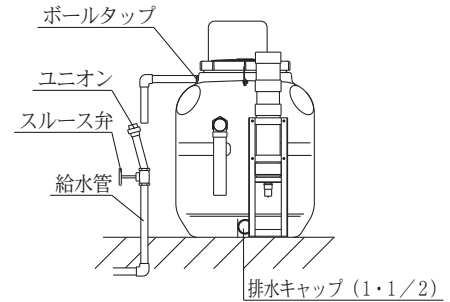
<図-18>

- (6) 降雨時にセパレータ下部から初期雨水除去のため若干の漏れ（約0.8 L/min）があります。ウッドデッキ等を設置される際は、排水を考慮し施工してください。排水管を施工される場合は間接排水とし、セパレータ下部のソケットに直接配管を接続しないでください。セパレータの清掃ができなくなります。
- (7) 豪雨やフィルタの詰まりなどにより、セパレータ上部から雨水が溢れることがあります。溢水を考慮のうえ、必ず屋外に設置してください。
- (8) 排水用キャップ（1・1／2）がしっかりと締め付けられているか確認してください。
- (9) 給水<図-19>

工事の際、配管内に混入した切粉・泥等の異物は、ボールタップの弁を詰まらせたり、受水槽内を汚しますので、次のようにして取り除いてください。

ボールタップの配管とユニオンを接続するまえに、スルースを開き水を放出し、配管内の切粉やゴミを流し去ってください。

終わりましたらスルース弁を閉め、ボールタップの配管とユニオンを接続してください。



<図-19>

7 電気工事

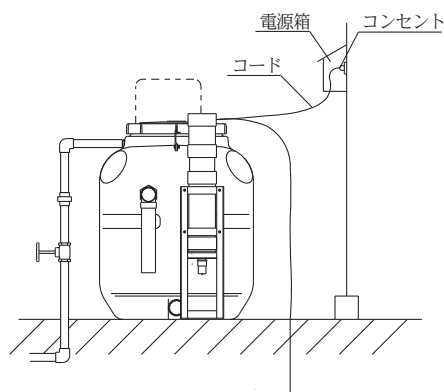
▲ 警 告

- 電気工事は、「電気設備技術基準」および「内線規程」に従い専門技術者により確実に施工してください。配線、接続に不備があると、故障・漏電・感電・火災の原因になります。
- 接地工事は通電前に必ず行ってください。アース線を確実に取り付けないで運転すると故障、漏電・感電・火災の原因になります。
- タコ足配線（複数の電気機器を接続）は避け、専用配線にて施工してください。漏電・感電・火災の原因になります。
- 配線作業などで取り外した端子箱カバーは必ず元通りに取り付けしてください。感電やけがの恐れがあります。
- 電源プラグ・配線接続部・結線部・端子部などのほこりを除去してください。ほこりの付着などを放置すると発熱し、火災の原因になります。
- 電源投入前に配線接続部・結線部が緩んだり外れたりしていないか、確認してください。一箇所でも緩んだり外れたりしていると、火災・感電の原因になります。
- 電源プラグは、根元まで確実に差し込み、傷んだプラグは使用しないでください。差し込みが不完全な場合、感電・火災の原因になります。

▲ 注 意

- 電源ケーブルや制御線を同一管内またはダクト内に併設させないでください。本製品や他の機器が誤動作する恐れがあります。
- やむをえず屋外にコンセントを設ける場合は、防水形コンセントを使用してください。漏電・感電・火災の恐れがあります。

- (1) 装置の電源は専用のコンセントを設けてください。
- (2) 屋外で使用される場合は、電源箱を設けてください。
- (3) ポンプに付属のアース線を使用して確実に接地してください。詳細はポンプの取扱説明書をご確認ください。アース線を扱われる場合は、電源をしゃ断して行ってください。
- (4) 漏電しゃ断器を取付けてください。
万一漏電が起こった場合、自動的に電源をしゃ断し、感電を防止しますので、アースを取ると共に、漏電しゃ断器を取付けることをおすすめします。



<図-20>

8

試運転

▲ 警告

- 配線を取り付けたり取り外したりする場合、必ず電源を遮断して作業を実施してください。感電する恐れがあります。
- 電源を投入後及び通電状態にて制御盤の充電部やモータ端子、ケーブル先端部などに触れないでください。漏電・感電・火災の原因になります。
- モータ、制御盤（電装箱）には水をかけないでください。感電・漏電・火災や故障の原因になります。
- 停電の場合は電源スイッチを切ってください。復電時に製品及び設備機器の破損や急にポンプが運転してけがをする恐れがあります。
- 運転中は吸込口に手足などを近づけないでください。吸い込まれてけがをする恐れがあります。
- 製品を吊上げ状態での使用及び作業は行わないでください。落下及びけがの恐れがあります。

▲ 注 意

- 定格電圧以外では使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 運転中は回転部分に触れたり、開口部に指や異物などを入れないでください。感電、破損、けがの原因になります。
- 運転中、停止直後はポンプ、モータなどに触れないでください。高温になっている場合がありますので、火傷をする恐れがあります。
- 空運転、一定時間の締切運転、取扱液中に空気を混入させないでください。ケーシング・軸受・軸封などが破損したり、揚水不能になる恐れがあります。また、ポンプが過熱し火傷をする恐れがあります。
- バルブ類は正規の状態で使用ください。正常に動作できずユニット破損の恐れがあります。
- ポンプの周辺、ケーブル、制御盤、ポンプカバー内に燃える恐れがあるものを置いたりかぶせたりしないでください。過熱して発火する恐れがあります。
- 長期保管後や休止後の運転開始時には、「据付」「試運転」の順に従い、試運転を実施してください。固着などによるポンプ拘束、モータ焼損、落水などによる空運転などの恐れがあります。
- ポンプの運転は、仕様範囲内で行ってください。仕様範囲外での運転は、ポンプの故障や事故の原因になります。
- 試運転時は、ポンプ・配管内の空気抜きを十分行ってください。ポンプがエアロックを起こしたり、温度上昇し、故障・事故につながる恐れがあります。
- 呼び水及び排気をする場合は、本製品に水がかからないようにしてください。漏電・感電・火災、故障の原因になります。
- 自吸運転は、プラグ（呼び水口）をしっかりと締めて行ってください。自吸完了時に水が噴き出して、モータや制御盤（電装箱）などにかかると、漏電・感電、故障の原因になります。
- 砂や異物を吸い込ませないでください。始動不能や動作不良の原因になります。

[注記] ポンプの取扱説明書もよくお読みいただき、確実に試運転を行ってください。

地上用雨水利用装置の据付、配管工事、配線工事が完了しましたら、次の順序で試運転を行ってください。

- (1) 給水管側のスルース弁を開け、水道水を受水槽内に貯えてください。水が貯えられますと、ボールタップの働きにより自動的に止まります。
- (2) 吐出し管側のスルース弁及び配管した給水栓を全部開いてください。
- (3) ポンプカバーを外し、呼び水用プラグを取り外し、呼び水口より注水します。注水後、呼び水用プラグをしっかりとねじ込んでください。
- (4) ポンプの圧力スイッチの設定圧力を確認してください。吸上揚程は1m程度です。
- (5) ひしフランジのキャップを、小穴が下側になるようにゆるめてください。
- (6) 電源プラグを差し込んでください。
- (7) 電源を入れますとポンプが運転し、自吸を始め、吸込管中の空気を排出して自動的に自吸します。キャップの小穴から水が勢いよく噴き出てきたら自吸完了です。
- (8) 自吸が完了したら、キャップをしっかりと締めてください。
- (9) 揚水を始めましたら、各給水栓を開閉し、ポンプの始動停止の状態や運転音が異常に高くないか、ポンプおよび配管の水漏れがないかどうか調査してください。揚水しないときは、呼び水が不足している場合がありますので、電源を切って再び呼び水をしてください。
- (10) 給水栓を全部閉じて、ポンプが停止することを確認してください。
- (11) 試運転が完了しましたらモータ、ポンプ、アキュムレータなどについた水滴を乾いた布で拭き取ってください。
- (12) 試運転が終わりましたら受水槽のふたをしてください。

▲ 注 意

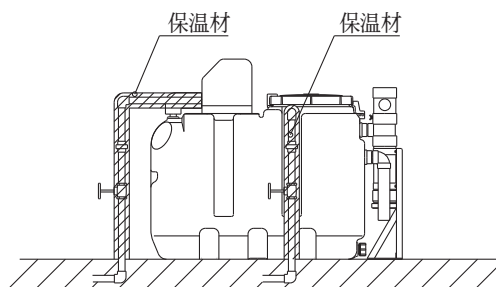
- ポンプに毛布や布をかぶせたり、ポンプカバー内に燃えやすいものを入れないでください。過熱して発火すると、火災の原因になります。

冬期には、装置や配管の中の水が凍ることがあります。水が凍ると配管が割れたり、水が出なくなりますので、防寒対策を施してください。

(1) 配管の防寒対策

給水管及び吐出し管には保温材を巻いてください。給水管・吐出し管の横引部は、できるだけ地下深く埋めてください。埋める深さはその土地の気温や地質によって決めてください。一般的には20 cm～30 cmです。

〔ご注意〕凍結による破損事故については責任を負いかねますので、凍結防止対策は徹底して行ってください。



<図-21>

▲ 警 告

- 動かなくなったり異常（ケーブル破れ、コゲ臭いなど）がある場合、直ちに運転を停止して電源を遮断し、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に点検あるいは修理を依頼してください。異常のまま運転を続けたり、修理に不備があると、漏電・感電・火災、漏水などの原因になります。
- 点検・交換の際は、必ずポンプの電源を遮断する。または、電源プラグを抜いて作業を実施してください。その際は、濡れた手で作業しないでください。漏電・感電やけがの恐れがあります。
- 機器を移動し再設置する場合は、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所にご相談ください。据付に不備があると、漏電・感電・火災、漏水などの原因になります。
- 制御盤（電装箱）などの電気部品の点検・交換時には、電源遮断後テスターなどで無電圧になっていることを確認してから作業を実施してください。感電やけがの恐れがあります。
- モータの絶縁抵抗値が1 MΩ以下に低下した場合、すぐにご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に連絡してください。モータが焼損したり、感電や火災を起こす恐れがあります。
- 修理の際は当社純正部品を使用してください。純正部品以外を使用された場合、故障及び事故の原因になります。また、正常な機能を発揮できない恐れがあります。

▲ 注 意

- 冬期に使用しない場合は、電源を切りポンプ及び配管内の水を抜いてください。ポンプ内や配管内に水が入ったまま放置するとポンプが凍結破損する恐れがあります。
- 分解・点検時には内部の圧力がゼロであることを確認してください。水が噴き出し事故やけがをする恐れがあります。
- ポンプが高温の場合はプラグ（呼び水口）を取り外さないでください。熱湯が噴出し、火傷をする恐れがあります。
- 長期保管後や休止後の運転開始時には、「据付」「試運転」の順に従い、試運転を実施してください。固着などによるポンプ拘束、モータ焼損、落水などによる空運転などの恐れがあります。
- 長期間安心して使用頂くために定期点検と日常点検両方の実施をお勧めいたします。点検を怠ると、ポンプの故障、事故などの原因になります。定期点検についてはご購入先、もしくは最寄りの弊社営業所にご相談ください。
- 消耗品は定期的に交換を行ってください。劣化・摩耗したまま使用になると、水漏れや焼付き・破損などの事故の原因になります。定期点検、部品交換などは、ご購入先もしくは最寄りの弊社営業所に依頼してください。
- 点検は点検項目に従って必ずおこなってください。故障を未然に防止できず、事故につながる恐れがあります。

(注) 給水ポンプの保守・点検は、ポンプに付属している取扱説明書をお読みください。

故障には予想外なことがあります。異常を発見したら速やかに対策することが大切です。故障の原因が分からないときは、ご購入先、もしくは最寄りの弊社営業所にご連絡ください。ご連絡の際は、KAWA太郎のセット記号、故障（異常）の状況をお知らせください



コンフォート アース

Comfort Earth® 水を通じて 地球環境を 考える

株式
会社

川本製作所

<http://www.kawamoto.co.jp>

本 社 〒460-8650 名古屋市中区大須4-11-39

☎052-251-7171 (代)

岡崎工場 〒444-8530 岡崎市橋目町御領田1

☎0564-31-4191 (代)

検査合格証

株式会社 川本製作所

検

査

検査

責任者